

図書館だより

第 16 号
昭和 58 年 12 月 20 日
愛媛大学附属図書館

目 次

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------|
| ○図書館を考える⑥…………… 1～5 | ○昭和 57 年度 愛媛大学附属図書館統計…… 7 |
| ○図書館に集中化する購入学術雑誌と
その運用について…………… 5 | ○愛媛大学附属図書館委員会報告等…………… 8 |
| ○書庫増築による資料配置の変更…………… 6 | ○新着参考図書リスト…………… 8～9 |
| | ○お知らせ…………… 9～10 |

図書館を考える……⑥

<座談会>

図書館を語る

—自然科学系図書館委員—

ひと：理学部(生物学) 野田 善 郎 工学部(工業化学) 石 森 富太郎
農学部(農芸化学) 稲 岡 恵 教養部(生物学) 池 田 洋 司
附属図書館長 星 島 一 夫 事務部長 小 河 清
とき：昭和 58 年 9 月 21 日 ところ：館 長 室

館長 本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。『図書館だより』で、継続的に行っています「図書館を考える」という座談会も、今回で5回目となりました。前回は人文・社会科学系の図書館委員の先生方と座談会を行いました。今回は自然科学系の図書館委員の先生方に集まっていただき、忌憚ないご意見をおうかがいしたいと思います。よろしくお願いします。

前回の人文・社会科学系の先生方との座談会では、図書館が抱えている課題の中から「学術雑誌の集中化」と「図書館委員会のあり方」について主に話していただきました。今回も、「学術雑誌の集中化」から話していただければ、と思います。



○学術雑誌の集中化について

館長 先日、集中化を進めるため、各学科・講座

宛に「学術雑誌の集中化調査書」をお送りいたしました。城北地区のそれぞれの教室に分散している雑誌（カレント誌・バックナンバー）のすべてをリストアップし、どの雑誌を図書館に常置して共同利用するか或いは今までどおり教室に置いて利用するかのご意見を聞きしている最中です。少しずつ回答が回収されつつあると聞いています。まず、野田先生にお伺いいたします。城北キャンパスでは、生物学関係というと、理学部と教育学部と教養部に研究室があるのですが、学部を越えての話し合いは進んでいますでしょうか。



野田 雑誌の共同利用は行っていますが、共同購入というところまでは至っていません。

館長 雑誌の集中化について、話し合われたという経緯はありますでしょうか。

野田 集まって話し合ったということはありません。

館長 数学の方では、どのような雑誌を集中化できるのか、すでに話し合っているとかお聞きしたのですが。

野田 私の方でも学科内では話し合いました。現在、講座や研究室単位でかなり雑誌を購入しています。その雑誌を学科の図書室に収納することが、まず難しいですね。すぐに見られるところに置いていないと不便だということです。それから、学科の図書室に集めてしまうと、一体誰が管理するのかという問題もあります。学部生や院生が自由に入出入りしますから、バックナンバーの揃った雑誌がバラバラになっては困るということもありますし、学科の事務の人に管理をお願いすると仕事量が増えるので難しいということもあります。このような問題があり、まだ詳しい話し合いは行えていません。



池田 生物学関係の雑誌は理学部と教養部とではあまり重複していないと思います。手元に置きたいという気持ちは皆さんあるのじゃないでしょうか。特に学会誌などは個人が持っている

しがるべき性質の雑誌です。一概に集中化といっても難しいことは多いと思います。

館長 理学部の方では、集中化の話などがありましたでしょうか。

野田 私が委員になってからは、そういう話はまだ1度もありません。先ほど数学関係の研究室の話が出ましたが、数学では雑誌が学科の図書室できちんと製本されて管理されています。他の学科は見学していないのでわかりませんが。



石森 まず、共同購入が先で、それから集中化というのが順序だと思えます。それぞれが、バラバラに購入している状態では、いっこうに集中化の話は具体化しないと考えられます。共同購入というのは経済的メリットが相当あります。

もし集中化が順調に行われた場合でも、すぐに参加するというのではなく、どこかの学部が行っている様子を1年なり2年なり見て、くっついて行こうというムードが強いのです。なかなか難しいですね。大きな大学から移ってこられた方たちは、集中化を経験済みなのです。たとえ、そういう人たちに集中化の意向があっても、お金が複数の教室から出ているような雑誌は難しいですね。ですから、お金の話をまず済ませてもらう方がよろしいのではないのでしょうか。重複して雑誌を購入している学科・講座に図書館の方から話をされて、それからアンケートで集中化の個々の誌名について賛否を取れば、話が順序通りに動くようなムードも感じられました。

館長 共同購入の話合いは、もう相当に進んでいるのでしょうか。

石森 それが、なかなか難しいのです。いま、学部内で共同購入の話が終ったぐらいで、学部を越えての話となると、誰がどういうところから始めるかという問題があります。私が読んでいる雑誌にしても、このキャンパス内でも3~4冊購入しているのです。無駄な経費は出来るだけ少なくすべきなのですが、いざ学部を越えての共同購入となると、誰が音頭を取るのかのルールづくりから行わなければなりません。どの学部が言い出すもおかしいような性格の問題ですから。

部長 アンケートの回答がいくつか返っています。その中には、他の学部との話し合いがつけばという条件付きの賛成が、やはりあります。図書

館としましても、きっかけを作った以上、掛け橋ぐらいの役は果さなければいけないと考えています。

石森 まず、お互が話し合うような機会を作って下さるとよいですね。そして、ひな形が出来て、どこかとどこかが話し合ったという実績があると、やりやすいと思うのです。最初というのは、どこも難しいでしょうから。



稲岡 私の所属する農芸化学教室としては、共同購入から話が始まり、60何種かの雑誌を農学部図書館の方で管理してもらうことになりました。ところが最近になって、だんだんと雑誌

の価格が高騰して、各講座の分担金が増えて来て、これまで購入していた雑誌を洗い直さなければならなくなっています。それでは、また、各講座がそれぞれ購読していた方式に返ろうかという意見も出て来ています。しかし、せっかくこれまで購入して来た雑誌は農学部図書館の方で集中化してゆく考えです。教室で管理するよりも図書館で管理する方がうまく行くのではないかと、思えて来ているのです。集中化のメリットとなる点が理解されないと難しいと思えますね。



館長 自然科学系の雑誌は高価なので、集中化のメリットははっきり出てくると思えます。また、経費の面だけでなく、その他の面でもメリットは考えられるのではないのでしょうか。ひとつ

は保管の問題です。保管については、先程先生も言われましたが、学科・教室よりも図書館の方がしっかりしているのではないのでしょうか。もうひとつは、学際的研究の要請に答えるためにも、一箇所に各専門分野の雑誌が集中的に管理されていて利用できるというのは、研究体制の基礎づくりの観点からもメリットがあると思えます。さて、バックナンバーの保管も大変気にかかることですが、この点についてはどうですか。

池田 図書館が改修ののち広くなると聞いています。そうなれば、バックナンバーと少し古くなってきた図書については、さっそく保管をお願いしたいと考えています。

館長 何年ぐらい前の雑誌になると、手元から離して図書館に収蔵されてもよいとお考えですか。

池田 4～5年ぐらいは、やはり身近に置いておきたいですね。

館長 他の学科でも同じぐらいですか。

石森 使い方によって、それぞれですね。何分にも、実験器具の購入とかに使えた金を節約して買っている雑誌ですから、購入請求者に所有権がないのは分かっているのですが、何か所有権に似たようなものを持っているような感じになるのですね。総論としては集中化に反対の人はいないと思います。各論として、どのように進めて行くかということです。ひな形でも出来れば分かりやすいのではないのでしょうか。

館長 数学あたりが先駆者となりますかね。

部長 先生方も、利用するのが不便にならないだろうかと半ば疑問を持ちながら集中化に賛成していると思えます。図書館側としても最善のサービスをして応えて行きたいと考えています。

石森 先ほども申しましたが、大勢で購読することによってコストを下げてもよさうという気持ちがあります。雑誌のコストの上昇は、明らかに研究費の圧迫要因となっています。試みとしてカレント誌を2～3点集中化してみたいと思っています。

部長 大学の予算のあり方からすれば、集中化によって浮く資金を一括して図書館にプールし、それを活用してゆくということも考えられます。まだ、そこまではゆかないとは思いますが。

館長 アンケートの回収結果はどうなっていますか。我々が考えている以上に、よい方向での結果となっていますか。

部長 まだ回収は少ないのですが、バックナンバーについては、かなりの学科・講座より図書館に置いて利用したい旨の回答がありました。

池田 第1の原因は、研究室にスペースがないからですね。共同で利用しようという発想ではなく、場所が無いからでしょうけれど。(笑)

館長 それでも良いですけども。(笑) そういう状況でも、そうなれば図書館に雑誌を読みに来る機会も増え、出入りしてもらっただけでも図書館の機能を理解してもらっただけでも図書館の

稲岡 だいたい何年かたてば、図書館に置くという規則でも出来ればよいのでしょうか。例えば

5年だとか。

館長 専門によっても雑誌の性格によっても違いがあるので、一概に決めるのは難かしいでしょうね。

部長 一昨年の調査ですが、昭和56年度の外国雑誌の重複分のうち、1部だけを購入することになれば、1,500万円ほどが浮くこととなります。つまり1誌10万円として、150誌は新しく購入できるということになります。

館長 理屈としては分かっても、これまで身近に雑誌を置いて読んできた訳ですから、その気持ちを変えろというのは難かしいと思えます。しかし、研究費の節減などの情勢悪化もあり、意外と賛成の方向の結果が出るような気もするのですが。

石田 当り前のことながら、総論としては賛成なのです。もう少し時間をかけて、PRしてゆくこと、実例を1年でもやってみれば理解される度合も増してくるのではないかと、つまり時間が必要ですね。

館長 ご不便をかけないということが分かれば、先生方の理解も増えてきますでしょう。

部長 図書館としても、コンテンツ・シート・サービスの実施、複写手続の簡素化、製本は図書館が負担する、とかで利用面のサービスを充実するつもりです。

野田 図書館に、重複している講座に対して、根気よく仲人役を買って出て欲しいと思います。(笑)

稲岡 図書館で集中化することが非常に大事なことなんだと、大学の共通経費の中から、あらかじめ集中化の経費を組んで、集中化すれば何割かの補助をするということにでもすれば、集中化も進みやすいのでしょうか。(笑)

館長 共通経費から集中化の予算をつくることにでもなれば、状況も考え方も相当に変わってきますね。

石森 私は、以前は日本原子力研究所にいたのですが、あのような研究機関では、集中化というのは当り前なのです。まず目的が相当にしぼられていて、予算もここあたりに比べると非常に多いのです。(笑)。図書館の職員も多い訳です。そのような条件ですと、集中化も簡単かと思えるのです。ところが、限られた予算で、その中から何かずつ抛出する訳ですから、難かしいですね。

館長 話がだんだんみみちくなって来ました。(笑)

部長 図書館には相互利用という制度があり、図書館を通じて、自分のところのない雑誌の論文を他館から入手している先生方は多いと思うのです。それだけ雑誌が少ない訳です。当館は、あまりに他館に依頼する件数が多いので、少しでもタイトル数を増やしたいという気持ちを常々持っています。

石森 いっきに行おうとすればデメリットが大きく出てしまうので、1歩ずつ、まずは仲人役が話し合いの機会をつくるあたりから始められたらどうでしょうか。

館長 図書館というと、これまでは人文学科系という印象が強くて、自然科学系の先生方の足が遠かったような気がします。これからの、情報量が増えて来る社会では、自然科学系の先生方の研究面でも図書館が援助できるようなことも増えて来ると思っています。

○図書館委員会のあり方など

館長 先に座談会を行った人文・社会科学系の先生方からは、図書館委員会で対応しきれない問題、例えば集中化の問題などが出来たときには、そのつど専門委員会のような機関を組織し、もっと機能的に委員会を動かしてゆくのはどうか、という話がありました。

稲岡 これまでの図書館委員会というのは、学生用図書予算を配分するぐらいでした。委員会の規定をみますと、企画・運営とあるのですがどうなっているのでしょうか。(笑)

館長 毎年同じような形式的な会議でよいのだろうか、とこの座談会シリーズで何度も言ってきました。そのようなご意見も聞いています。これからの図書館がどうあるべきかの基本的な問題を話し合う場だと思うのです。年2回ほどの開催ではいけないのじゃないかという気がしています。私が図書館の方向を勝手に決める訳にはゆきませんので、先生方のご意見を伺い、話し合う機会が必要な訳です。そのためにも専門委員会というのはよいのじゃないかと思えます。目の前の問題を考えるだけでなく、長期的なあり方を考える会も必要だと思えます。

稲岡 以前アンケートを実施しましたですね。それについても、個々の問題点について話し合える会というのは必要ですね。教官側から図書館の情報は分かりづらく、分かればもっと協力できることもあるんじゃないかとも思えるのですが。

館長 先生方と図書館とでコミュニケーションがはかられ、話し合いの中から改善できる点があれば、改善してゆけるようにしたいですね。コミュニケーションがなくて、先生方は先生方の意見と感想を持ち、図書館側は自分の立場で物を言っている。このように意思の疎通を欠いたところで進んで行っているのは非常によくありません。

稲岡 分かれば、教官側でも協力できることもあります。例えば、学生用の推せん図書リスト提出の件です。どうして、あのよう一気にまとめて、しかも短時間でリストを出せというのか分かりません。時間もなかつきつけられる訳ですから、どうしてもその時に思いついた図書を推せんしがちですね。(笑) そうしているケースが多いんじゃないでしょうか。本は毎日出版されている訳ですから、いい本だと思える本が出た時に、いつでも推せんし購入できるようにならないでしょうか。

部長 選書のシステムにつきましても、図書館委員会なり専門部会なりで根本的に洗い直さなければいけない問題です。もともと学生用図書というのは、図書館で学生用として選書しなさいという趣旨で配分されているらしいのですが、これまでは慣例として経費の大部分を各学部の先生方に推せんをお願いしている次第です。選書のあり方を再検討する価値は十分にあります。

館長 ある大学では図書館と先生方とで選書委員会を組織して、そこで選書しているようです。今のような推せんの仕方ですと、先生方の中にはリストづくりが重荷になっていて、図書館でやってくれないかと言っている方たちもいると聞いています。選書のあり方を考える部会も是非とも必要ですね。

石森 どのような図書館にすべきかですね。教育面に重点を置くのか、基本的な図書なら揃っている図書館とするのか。それとは別の話となるのですが、県立図書館とか隣の松山商科大学図書館とか県内の工場の図書室とかとの関連はどうなっているのですか。近隣でネットワークを組めば、か

なり大きな基盤が出来ますね。

館長 本省が地域に開かれた図書館と表現した意味の中には、そういった意味あいがあると思うのです。

石森 出来るところから少しずつでも進めてゆくべきでしょうね。

館長 これも、これからは大きな問題になると思います。これに関して検討する部会も必要ですね。いま話に出た中でも、集中化、選書のあり方、地域との協力関係、いろいろな問題があります。時間がきました。今後とも、お気づきの点がありましたらご意見をお聞かせいただきたいと思います。本日は、どうも貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

○ 図書館に集中化する購入学術雑誌とその運用について

座談会の中でも話がありました購入学術雑誌の集中化意向調査の集計を完了しました。その結果235誌(洋136、和99、註：図書館購入誌も含む)を昭和59年度から図書館で管理・運用してゆくことになりました。

運用は下記のとおりです。

記

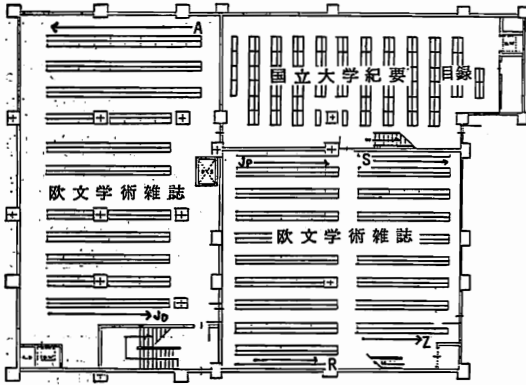
1. 新着雑誌の配架場所
1階北側学術雑誌コーナーに配架します。
2. 論文等の複写
①複写機は1階参考調査係カウンターの外側に設置します。
②雑誌論文の複写を含め、図書館(本館)内所蔵資料の国費(校費)による複写については、「国費複写申込書」によります。私費による複写は現行どおりです。
3. コンテンツ・シート・サービス
①洋雑誌については集中雑誌経費負担学科および教室宛に配布します。和雑誌で配布を希望するものについては、その旨閲覧係(3218・3219)まで連絡してください。
②閲覧係事務室の所定の棚に用意しますので、教室職員等来館の際に持帰っていただきます。
4. 58年1月から3月までの改修期間中の暫定措置
新着雑誌は、書庫1層入口の書架に配架します。
詳細は次号に掲載予定です。

書庫増築による資料配置の変更

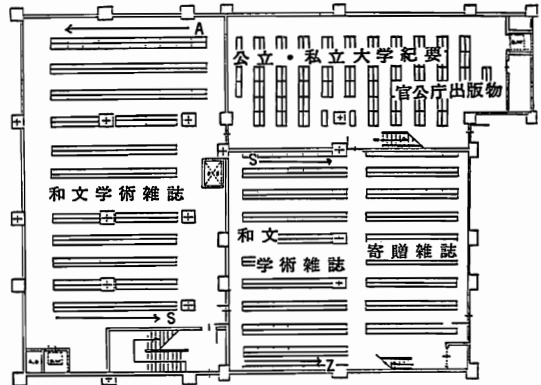
懸案事項であった書庫の増築が完了したことに伴い、下図のとおり資料の配置換を行いましたの

でお知らせいたします。

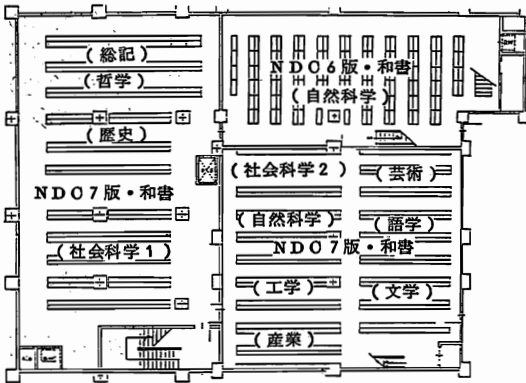
(閲覧係)



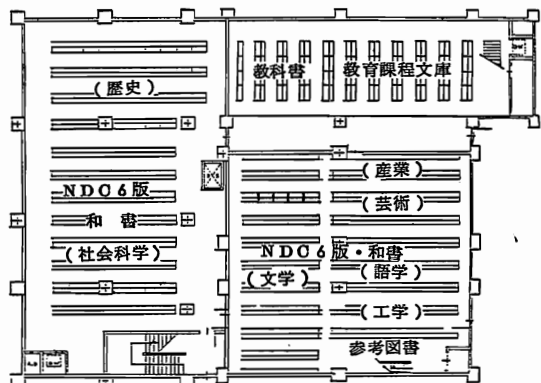
書庫1層平面図



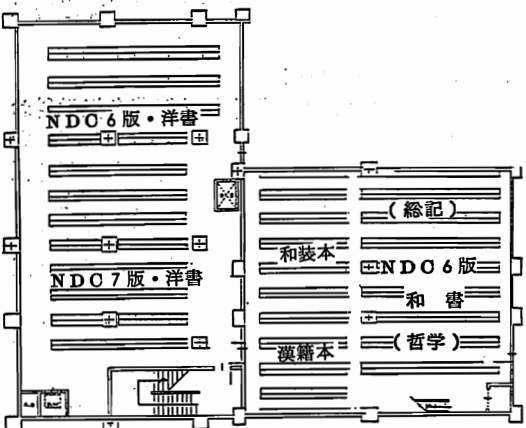
書庫2層平面図



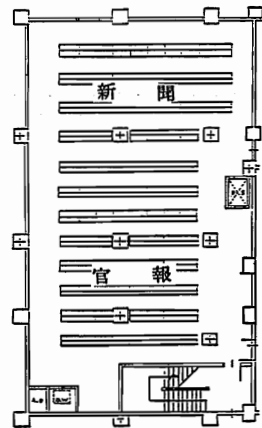
書庫3層平面図



書庫4層平面図



書庫5層平面図



書庫6層平面図

昭和57年度 愛媛大学附属図書館統計

蔵書冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	382,467冊	126,855冊	509,322冊
医分館	22,171	24,647	46,818
農分館	55,676	12,904	68,580
計	460,314	164,406	624,720

貸出人数

区分	教職員	学生	学外者	計
本館	1,330人	42,976人	120人	44,426人
医分館	4,771	5,476	18	10,265
農分館	256	3,523	2	3,781
計	6,357	51,975	140	58,472

増加冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	18,234冊	12,770冊	31,004冊
医分館	1,010	1,605	2,615
農分館	1,877	443	2,320
計	21,121	14,818	35,939

研究室貸出冊数

本館	19,515冊
医分館	1,161
農分館	1,326
計	22,002

受入雑誌種類数

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	2,413種	1,580種	3,993種
医分館	508	460	968
農分館	984	422	1,406
計	3,905	2,462	6,367

学内文献複写件数

区分	国費	私費	計
本館	465件	763件	1,228件
医分館	8,388	1,626	10,014
農分館	471	141	612
計	9,324	2,530	11,854

開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数
本館	339日	461,391人
医分館	289	54,600
農分館	304	14,305
計		530,296

学外文献複写依頼件数

区分	大学図書館	その他	計
本館	2,109件	265件	2,374件
医分館	4,465	33	4,498
農分館	349	25	374
計	6,923	323	7,246

貸出冊数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	2,718冊	72,568冊	270冊	75,556冊
医分館	6,366	8,934	35	15,335
農分館	370	5,832	9	6,211
計	9,454	87,334	314	97,102

学外文献複写受付件数

区分	大学図書館	その他	計
本館	1,031件	37件	1,068件
医分館	957	32	989
農分館	227	6	237
計	2,215	75	2,294

愛媛大学附属図書館委員会報告

昭和58年度第1回附属図書館委員会

日時：7月6日（火） 10：00～12：00

議 題

- (1) 昭和57年度学生用図書費及び後援会図書費の支出結果、並びに昭和58年度の推薦依頼について
昭和57年度の購入状況並びに昭和58年度における各部局推薦額及び図書館推薦分の増額方について説明があり、審議の結果原案通り了承された。
- (2) 愛媛大学附属図書館文献複写規程の一部改正(案)について
文献複写経費の取扱いに関する規程改正の趣旨説明があり了承された。
- (3) 自然科学系外国雑誌購入費について
今年度の配分額は昨年度の額よりさらに半減する見込であり、現在この経費で購入している外国雑誌の継続購入について困難が予想される旨の報告があり、その取扱いをいかにすべきか

審議が行われた。

その結果、それぞれの雑誌について関係の教官と図書館とで協議を行い、継続購入するかどうか、経費負担をどうするか等を個別に決定してゆく方向で了承された。

- (4) 学術雑誌集中化調査について

このことについて説明があり、種々意見が述べられ一部修正の上実施することです承された。

なお、委員長より各委員に対して、実施の際には各学科（講座）で検討していただく時には、他学部関連学科（講座）などとも協議していただくよう各教官に説明するとともに学部長にも趣旨を説明していただきたい旨の発言があった。

報告事項

- (1) 第31回中国四国地区大学図書館協議会総会について
- (2) 図書館事務部課長会議について
- (3) 第30回国立大学図書館協議会総会について

愛媛大学附属図書館委員会委員

()内は任期

附属図書館長	星 島 一 夫 (昭59. 3. 31)	野 田 善 郎 (昭60. 3. 31)
医学部分館長	四 宮 孝 昭 (昭59. 9. 30)	医 学 部 辻 村 崇 浩 (昭60. 3. 31)
農学部分館長	徳 増 智 (昭59. 10. 31)	工 学 部 石 森 富 太 郎 (昭59. 3. 31)
法 文 学 部	美 山 靖 (昭60. 3. 31)	岸 洋 介 (昭60. 3. 31)
	福 本 茂 雄 (昭59. 3. 31)	農 学 部 稲 岡 恵 (昭59. 3. 31)
教 育 学 部	柳 田 征 司 (昭60. 3. 31)	教 養 部 中 安 ち か 子 (昭60. 3. 31)
	白 方 勝 (昭59. 3. 31)	池 田 洋 司 (昭59. 3. 31)
理 学 部	松 沢 喜 一 郎 (昭59. 3. 31)	事 務 局 長 滝 沢 源 平

新着参考図書リスト

全集叢書総覧 新訂版 八木書店 1983
 The British Library general catalogue of printed books 1976 to 1982, 50 vols. K. G. Saur, 1983.
 大宅壮一文庫索引目録 新訂第2集 大宅壮一文庫 1983
 帝国図書館和漢図書書名目録 訂補縮刷版 全3巻 1982-83
 World press encyclopedia, 2vols. Facts On File,

1982.

ジャーナリスト年鑑 マスコミ評論社 1983
 愛媛先哲列伝 愛媛地方史研究会 1982
 愛媛県町村自治名鑑 愛媛県町村議会議長会 1982
 人物レファレンス事典 全7巻 日外アソシエーツ 1983
 日本歴史大辞典 新装増補改訂版 全10巻, 別巻 河出書房新社 1983
 現代物故者事典 1980—1982 日外アソシエーツ 1983

- 昭和物故人名録(昭和元年～54年) 日外アソシエーツ 1983
 判例辞典 六法出版社 1983
 マクミラン世界歴史統計 1—2 原書房 1983
 The International foundation directory. Europa Pub., 1979.
 日本民俗語大辞典 石上堅著 桜楓社 1983
 McGraw-Hill encyclopedia of science & technology, 15 vols. McGraw-Hill, 1982.
 Powder diffraction file (Inorganic volume), sets 1-24. JCPDS, 1974-83.
 日本地質アトラス 通商産業省工業技術院地質調査所 1982
 分析化学データブック 改訂3版 日本分析化学会 1983
 量子効果ハンドブック 森北出版 1983
 放射線データブック 地人書館 1982
 試薬便覧 南江堂 1983
 エネルギー科学大事典 講談社 1983
 全国試験研究機関名鑑 丸善 1983
 海洋土木大事典 産業調査会 1983
 新撰産業情報総覧 日外アソシエーツ 1983
 演劇百科大事典 全6巻 平凡社 1983
 日本語になった外国語辞典 集英社 1983
 The Concise Oxford dictionary of current English. Oxford Univ. Press, 1982.
 Longman dictionary of contemporary English. Longman, 1978.
 A Supplement to the Oxford English dictionary, vol. 3. Oxford Univ. Press, 1982.
 児童文学マニュアル 1983 偕成社 1983
 子規俳句索引 子規記念博物館友の会 1983

お 知 ら せ

○愛媛大学記念文庫について

昭和58年3月から昭和58年11月までの間に
 ご寄贈いただいた図書は下記のとおりです。

中村 和夫

認識・感情・人格 三和書房 1983

横飛 信昭

現代社会学の視点 法律文化社 1983

中小路駿逸

日本文学の構図 桜楓社 1983

田崎 三郎

通信工学 朝倉書店 1983

愛媛大学古典叢刊行会

愛媛大学古典叢刊

愛媛大学古典叢刊行会 1982

伊勢物語 実隆筆天福本

名女情比

大山祇神社 法楽連歌 上・下

金葉和歌集 上・下

光源氏歌抄出

かなめいし

つれづれぐさ 上・下

古今和歌集

伊勢物語 伝後京極撰政良経筆本

死霊解脱物語聞書

藤 たかね 花橘

拾遺和歌集 上・下

大海集 上・下

景清

長枕褥合戦・道行京みやげ・誹諧花橘集 下

古今著聞集私記

正統古事談・十訓抄 私記

源氏物語 上・下 伝冷泉為相他筆鎌倉期

古写本

新古今和歌集 1～3 伝龜山院・青蓮院

道円親王筆

針の供養

後拾遺和歌集 伝惟房筆本

住吉物語

大海集 翻刻編

瀬川 富士

新版 古典力学 上 吉岡書店 1983

田代 豊雄

六訂 食品栄養便覧 愛媛大学教育学部 1982

柳田 征司

論集日本語研究13 中世語 有精堂出版 1980

詩学大成抄の国語学的研究 影印篇 上・下

研究篇 清文堂書店 1980

愛媛地理学会

愛媛の地理 愛媛地理学会 1983

星島 一夫

現代日本の労働問題 法律文化社 1983

白方 勝

源氏こぼれ草 卷十七 源氏物語読書会 1982

○学生希望図書について

昭和58年3月から11月までに購入した学生希望図書は下記のとおりです。

- Group theory I.
M. Suzuki. Springer-Verlag, 1982.
- サッカー人間学
デズモンド・モリス著 小学館 1983
- 千一夜物語 全13巻
豊島与志雄(他)訳 岩波書店 1982
- 物理入門コース 全10巻
戸田盛和(他)編 岩波書店 1982
- 道元禅師の話
里見 淳著 岩波書店 1983
- 電気伝導性酸化物
津田惟雄著 裳華房 1983
- 微分方程式の基礎
笠原造司著 朝倉書店 1982
- 政治学
横越英一著 日本評論社 1982
- Fundamental of combustion.
R. A. Strehlow. R. E. Krieger, 1979.
- 日本近世割地制史の研究
青野春水著 雄山閣 1982
- 大名と領民
青野春水著 教育社 1983
- 線型代数学
服部 昭著 朝倉書店 1982
- グラフとタイグラフの理論
M. ベザット(他)著 共立出版 1981
- 辻潤選集
玉川信明編 五月書房 1981
- 上・中級技術系公務員試験合格情報
実務教育出版 1983
- 家庭教育撰集「父親の役割」
桂 広介(他)編 金子書房 1981
- 笑う哲人 バーナード・ショウ
市川又彦著 早稲田大学出版部 1975
- 現代ヨーロッパ政治史 上・下
山口 定著 福村出版 1983
- フェルマーの最終定理13講
P. Ribenboim 著 共立出版 1983
- ケネディ王国
G・ウィルズ著 TBS プリタニカ 1983
- 正多面体を解く

- 一松信著 東海大学出版会 1983
- 国際法概論 上・下
高野雄一著 弘文堂 1983
- 国際法講義 上・下
田畑茂二郎著 有信堂高文社 1981
- 日本外交史概説 増補
池井優著 慶応通信 1982
- 近代日本婦人教育史
千野陽一著 ドメス出版 1980
- 国際社会における人権
高野雄一著 岩波書店 1977
- 経済原論
千種義人(他)著 世界書院 1982
- ニューハンドブックス国際法 第2版
田畑茂二郎(他)編 有信堂高文社 1983
- 近代経済学の基礎知識
新開陽一(他)編 有斐閣 1982
- ケースブック国際法 増訂版
田畑茂二郎(他)編 有信堂高文社 1983
- 例題が教える群論入門
横田一郎著 現代教学社 1976
- 戦間期国際政治史
斉藤孝著 岩波書店 1978
- フランス語講座 第2、4巻(カセットテープ)
大修館書店
- 大内力経済学大系 第1-3巻
東京大学出版会 1980-1982
- 2次行列の世界
岩堀長慶著 岩波書店 1983

○図書館改修工事について

図書館の改修工事が下記のとおり行われます。利用者の皆さんにご迷惑をおかけしますがご協力をお願いいたします。

なお、工事の都合により休館する場合は、前もって掲示等でお知らせいたします。

記

期間：自 昭和58年9月15日

至 昭和59年2月末日

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第16号 昭和58年12月20日発行

発行 愛媛大学附属図書館

松山市文京町3番

Tel 0899-24-7111